



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学ピア・サポートの設立と展開経緯の整理と今後の課題：ネットワーク構築支援型ピア・サポートに向けて
Author(s)	岡本, 健
Relation	『Sauvage : 北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院院生論集』7号プレレビュー会, 2010年12月17日(金), 北海道大学メディア棟105教室.
Issue Date	2010-12-17
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/44484
Type	conference presentation
File Information	20101217slide.pdf, 発表スライド



北海道大学ピア・サポートの設立と展開経緯の整理と今後の課題
ーネットワーク構築支援型ピア・サポートに向けてー

2010年12月17日(金)
Sauvage院生論集7号プレレビュー会
於:メディア105教室

北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院
観光創造専攻 博士後期課程所属
岡本健

本稿の背景

1. 近年、**ピア・サポート**というシステムが、小学校・中学校・高校・大学などの教育機関、医療の分野、就職支援の分野など、さまざまな現場に導入されている。

→ciniiで「ピア・サポート」と検索すると348件ヒット

2. ピア・サポートとは「仲間による支援・援助活動(早坂 2010)」

* 類似のものに**セルフヘルプグループ**があるが、ピアサポートとは、「ピア・サポーターとして訓練を受けた者が自覚を持って仲間を支援・援助する」という点で異なる(早坂 2010)。

3. 2000年から、様々な大学で導入されはじめている。

本稿の背景

4. 早坂(2010)によると、学校でのピア・サポーターの役割として以下の5点が挙げられている。

- ①先輩や友人
- ②相談相手
- ③調停者
- ④教育者
- ⑤学習支援者

→これらの機能は、大学生活において、システムの的に保障されていなくても、必要になってくるもの(?)

早坂浩志(2010)「学生に向けた活動2 —授業以外の取組み」日本学生相談学会50周年記念誌編集委員会(編)『学生相談ハンドブック』学苑社, pp.185-201.

北大ピア・サポートの背景

- 大学生生活には数多くの**悩み**がある。

学生生活

学問・研究

就職・進路

etc.

- 悩みがあること自体は問題ではない、

- 従来であれば様々な人に相談するなどして、
悩みを解決してきた。

- しかし、**個人化**が進んだことでふとした時に相談できる
相手がいない場合が出てきている。

- 一方で、学内では、**学生支援のための組織やシ
ステム、人材**といった資源がすでにある。

- 学生とそうした組織をつなぐ**役割**を担う組織が必要

著者の研究的興味・関心

- 本当に、個人化は進んでいるのか？
- 進んでいるとして、ネットワーク化はいかにして可能か？
- ネットワーク化なぞ、そもそも必要なのか？
- 一方で、教員とうまくいかず、大学に来れなくなったり、悩みを抱えてしまったりという学生やアカハラの問題など、無視できない事態も
- 院生同士の研究的コミュニケーションがなされず、関係維持のためのコミュニケーションを重視するような場面も
- 学内広報の問題（サポート資源が知られていない）

**→大学という場でのコミュニケーションや広報、
教育におけるコミュニケーションの問題**

を考えることができるテーマ

ピア・サポート活動の概要

☆ピア・サポーターが、学生からの相談を受け、その解決をはかる、あるいは、解決が可能な組織を紹介することが主たる業務

☆ピア・サポーターの構成

- 学部生：6人（男性3人、女性3人）
- 大学院生：5人（男性2人、女性3人）

☆2009年11月に試行、
2010年4月より本格稼働

☆ボランティア相談室を
間借りしていたが、2010年10月より専用の部屋に移転



旧ピア・サポート室の様子

表1. 相談人数(単位:人)

2010年4月	15
2010年5月	4
2010年6月	3
2010年7月	1

工学部、文学部、医学部のみ

学部1年、修士1年など、新入年度のみ

利用者減による
メンバーのモチベーション低下が問題

本当に悩みが少ないのであれば
こんなに素晴らしいことは無いが、
実際はそうではない。

表2. 相談者の学部と学年(単位:人)

	学部1年	修士1年	合計
工学部	5	0	5
文学部	1	2	3
医学部	2	0	2
合計	8	2	10

表3. 相談内容と相談数(単位:人)

相談内容	相談数
道案内	6
履修	5
アルバイト	3
授業	2
ボランティア	2
サークル	2
学生生活全般	1
資格・試験	1
その他	1

表4. 相談者の滞在時間

	min
最小値	1
最大値	90
平均値	19.9
標準偏差	24.2

n = 19

相談内容は多様。
また、じっくりと話しているうちに
様々な悩みの掘り起しができる場合も。

つまり、来室していないが、
悩みを抱えていたり、
悩みの種はあるが、無意識にしまっ
ている可能性も。

交流創出イベント「本活」を実施

企画の背景

- ♪ピア・サポートの広報として(組織と場所の周知)
- ♪ピア・サポーターの実地訓練の場として
(サポーターのコミュニケーション能力の向上)
- ♪学生のサポートニーズに関するデータ収集として
(聞き取りおよびアンケート調査)

実施概要

- ♪いらなくなった本を回収し、これから使う学生に受け渡す
- ♪本の回収時には、文房具等と交換
- ♪本の頒布は無料、ただし、アンケート記入を必須

～本活～

いらなくなった本や教科書、参考書
があれば、是非お持ちよりください。

(マンガ・雑誌等、一部引き取りができないものもありますが、ご了承ください。)

協力してくださった方には、冊数・金額に応じて
もれなく粗品をプレゼントいたします。

★粗品例★

1冊以上…ペン、クリアファイル

10冊以上…USBメモリー などなど

回収場所：ボランティア室（高等教育機能開発総合センター N109）

回収日：3月16日～30日の(火)と(木) 14時～16時30分

4月 5日(月)～9日(金)

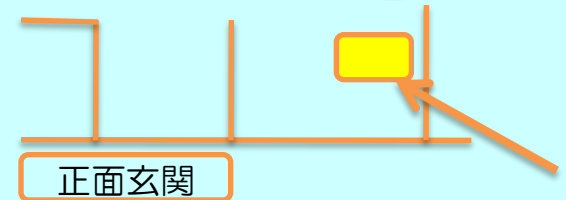
月・水・金11時～15時、火・木11時～17時

※「ピアサポート」とは…

学生の、学生による、学生のためのサポート活動です。

学生生活の悩み、疑問を一緒に解決します。

《予告》今回回収した本は、4月12日～16日にボランティア室
にて無料で頒布します。探してた本が見つかるかも！！



正面玄関

ボランティア室

ピアサポート学生委員会

連絡先：011-706-7454（高機能センター学生支援課）

honkatsu@gmail.com（ピアサポート学生委員会「本活」担当）

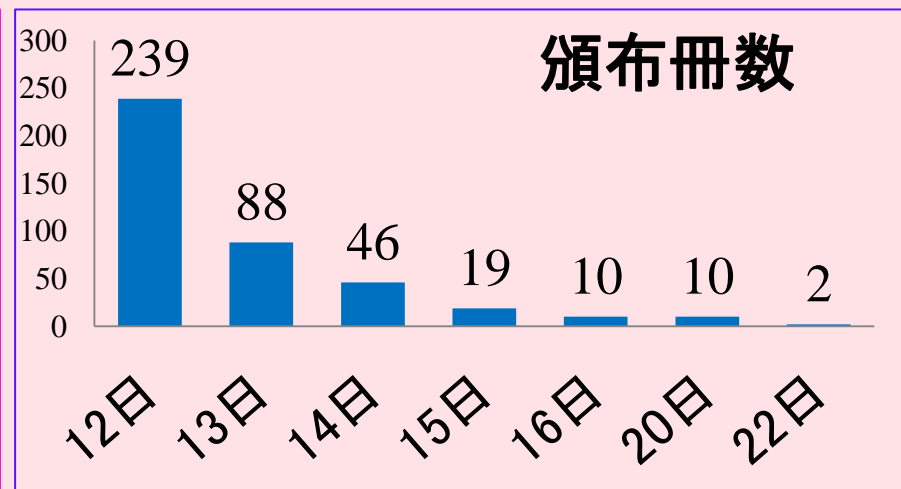
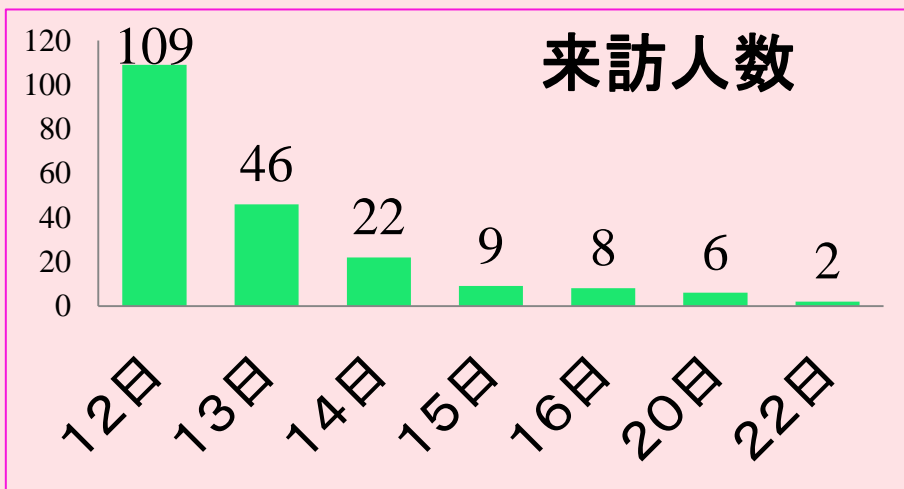
結果

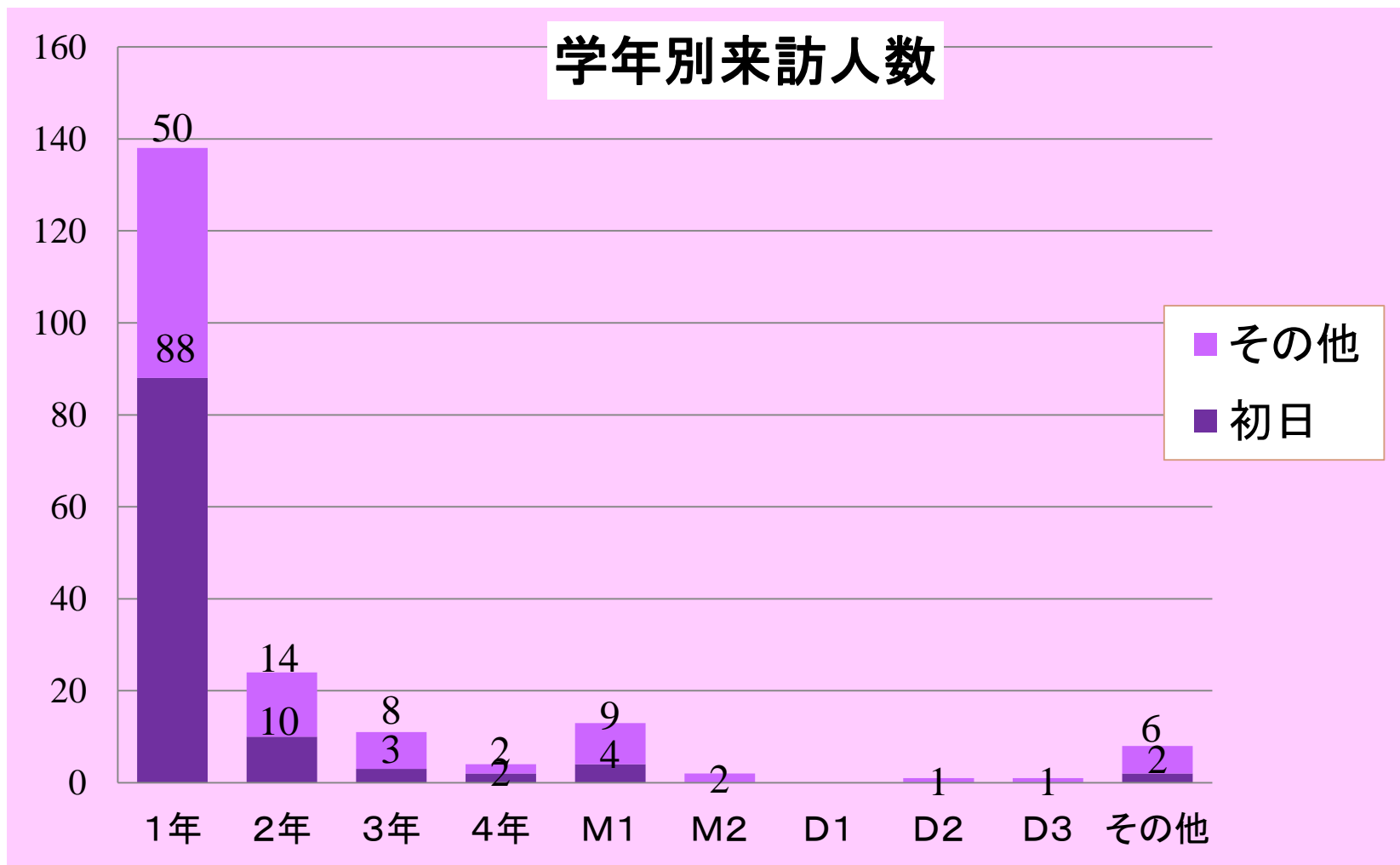
■ 2月、3月、4月に本を回収

•→計492冊の書籍を回収

■ 4月中旬一週間が頒布期間

•→約400人が来訪。202人に414冊の書籍を頒布









■ 2月、3月、4月に本を回収

•→計492冊の書籍を回収

■ 4月中旬一週間が頒布期間

•→約400人が来訪。202人に414冊の書籍を頒布



- ・予想を上回る来場者数
- ・本を通してコミュニケーションが促進される
- ・立ち話であっても、軽い相談を解決することができた
- ・ピア・サポートの周知
- ・ピア・サポーターのモチベーションアップ

何をきっかけに本活を知りましたか？

紙媒体	128	クラオリパック	24
		ポスター	25
		不明	79
人づて	56		
たまたま通りかかった	12		
不明・その他	11		

本を選んだ理由はなんですか？

① ・授業で必要な教科書だから

・今後、専門分野の参考になりそうだから

② ・語学・資格の勉強のために

・趣味（小説の内容に興味があったから 等）

① 教科書のニーズが高い。

② 学習や趣味、資格などの自分の成長に資する動機。

「学生生活で力を注ぎたいこと」

学習面	127	62.9%
課外活動(部活・サークル)	62	30.7%
アルバイト	16	7.9%
読書	7	3.5%
生活	5	2.5%
資格取得	3	1.5%
その他	46	22.8%
無記入	13	6.4%

「学生生活で不安なこと」

勉強	58	28.7%
生活全般	32	15.8%
金銭	17	8.4%
進路	15	7.4%
大学生活	14	6.9%
人間関係	12	5.9%
その他・不明	27	13.4%
ない	20	9.9%
無記入	22	10.9%

学習面に関して力を注ぎたいが不安、という現状が見えた。

不安なことが無いという人は1割程度しかいない。

ピア・サポート活動の今後

効果的な**広報**のためには、**組織の位置付け**の明確化が必要。逆に、**組織の位置付け**が明確化していれば、的確な**広報**が可能に。

広報

広報によって相談者が増えたり、相談員が増えることで、成員の**モチベーション**および**人材**の維持につながる。逆に、成員の**モチベーション**が高く、**人材**も良ければ、そのこと自体が**広報**になっていく。

組織の位置付け

成員の維持

・モチベーション
・人材

組織の位置付けが明確化すると、成員は「誰のために何をしているのか」という自分の位置付けを理解することになり、**モチベーション**が高まる。逆に成員それぞれが、自分の**活動の位置付け**を明確化することにより、**組織の位置付け**も明確化される。

今後の展開

- ①**広報ビデオ制作**
ピア・サポートのマーケティングをメンバーで考え、映像を制作。
- ②**ピア・サポート・カフェ(新ピア室)**
相談の敷居を下げるために、学生同士の交流の場をデザイン。
- ③**ネオ本活**
生協の書籍部と共同で実施の方向性を模索。

ご清聴ありがとうございました！